

京都 kongress アンシラリーミーティング
世界保護司会議（仮訳）

閉会挨拶

御列席の皆様、

京都保護司宣言が世界保護司会議で採択されたことを受け、この成功したイベントの閉会式で、UNODCを代表して登壇できることを光栄に思います。

国連刑事司法・犯罪防止会議は、犯罪防止と刑事司法の分野で革新的なレガシーを残すことを目的としています。採択されたばかりの京都保護司宣言の精神と、京都保護司宣言に含まれる、地域ボランティアの役割を促進するための革新的な提言は、第14回国連犯罪防止刑事司法会議のレガシーの重要な一部になると信じています。

日本において、「保護司（HOGOSHI）」制度は長い歴史を有していますが、今日の発表や議論でもお聞きしたように、保護司をはじめとする地域ボランティアは世界の多くの国で活躍しています。彼らは、「誰一人取り残さない」という人間としての精神を守り、推進しています。保護司は、刑事司法関係者との協働や、犯罪者のニーズに対する一般市民の理解に影響を与えることで、犯罪防止、犯罪者の社会復帰、包括的で平和なコミュニティの構築に力強く貢献しています。

本会議では、保護司にとって、自らの活動や直面する共通の課題について情報交換できる国際的なプラットフォームを持つことがいかに重要で価値があるかが示されました。そのため、UNODCは、犯罪者の立ち直りを支援する地域ボランティアのグローバル・ネットワークを構築し、国境を越えた協力と相互支援を強化すべきだという京都保護司宣言の提言を歓迎します。

また、UNODCは、再犯を減らすことが犯罪防止において必要不可欠でありながら、軽視されがちであることを認識しています。地域ボランティアが刑事司法の実務家と協力し、実践的かつ人間中心の方法で犯罪者の地域社会への再統合を支援することは、国際社会が支持する再犯防止戦略の中でも、確実に重要な位置を占めるべきものです。

最後になりましたが、日本の法務省、UNAFEI、全ての講演者、パネリスト、そしてこのイベントを準備し、参加し、大成功を収めた全ての方々にお祝いと感謝の意を表します。そして何よりも、御自身の時間、人生経験、スキルを活かして、地域社会や仲間のために貢献されている地域ボランティアの皆様に、お祝いと心からの感謝を申し上げます。